



軽防協ニュース速報

2018年第2四半期(4月-6月)の伝染病発生状況

2018年9月配信

(International Collating Centre からの情報)

アルゼンチン

馬インフルエンザ

2018年4月5日、国際獣疫事務局(OIE)はアルゼンチンにおける馬インフルエンザの発生を報告した。2018年3月20日、メンドーサで発生が確認され、サン・イシドロ、ラプラタ、パレルモでさらなる発生が確認された。メンドーサで最初の症例が確認された後に行われた調査によると、2018年3月初めに近接するサン・フアン州のバレアルで発生した症例との関連が確認された。アンデス山脈地域では夏季放牧の移動中にチリから来たウマ科動物(ラバとウマ)と頻繁に接触が発生する。2018年1月以降現在も続いているチリでの発生(ICCレポート1月#12)との一時的な関連は、両国での発生の疫学的な関係性を示唆することができる。診断は国立研究所(SENASA)でPCR検査により実施された。サーベイランスと防疫措置が現在行われている。最新の情報では少なくとも10施設で発生し、42頭が陽性と診断された。何頭にワクチン接種されていたかは不明であるが、90%はFluvac Innovator(訳者注: KY/97株とEHV-1、EHV-4を含むワクチン)が接種され、残りはフロリダ亜系統クレード1(2012アルゼンチン分離株)とフロリダ亜系統クレード2を含むアルゼンチンのワクチンが接種されていた。ほとんどの感染馬は3歳齢以上で、臨床症状は軽度であった。最新の陽性例は2018年7月10日にブエノスアイレス州で確認された。ウイルス株はH3N8のフロリダ亜系統クレード1であると確認された。

ウマヘルペスウイルス4型(EHV-4)による呼吸器疾患

2018年4月13日から5月18日の間、EHV-4の2件の発生が報告された。ブエノスアイレス州の2施設で6頭が感染した。感染馬はワクチン未接種の6~8ヶ月齢の子馬であり、呼吸器症状を呈した。診断はPCR検査によって行われ、国立農業技術研究所(INTA)のウイルス学研究所で実施された。

オーストラリア

報告未着。

カナダ

馬伝染性貧血(EIA)

2018年4月1日から6月30日の間にアルバータ州で2例のEIA陽性馬が報告された。2例はそれぞれ別の施設で発生し、疫学的な関連は認められていない。1例はショーに参加するために必要な検査で、もう1例は輸出前検査で摘発された。どちらも採材時には臨床症状は認められなかった。

チリ

報告未着。

デンマーク

報告未着。

フランス

情報は馬感染症疫学監視ネットワーク (RESEP) から提供されている。フランスの全ての症例の発生は第2四半期間以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。

ドイツ

馬伝染性貧血

ICCは、ドイツの主席獣医官がOIEに対して、EIAの発生(2018年4月#03の中間報告を参照)が2018年7月29日に終息したと公式に宣言したと報告を受けた。罹患馬は安楽死措置をされた。発生源あるいは感染元は依然として不明で確定していない。

ドイツの症例や発生は、第1四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。

Dr.Boese 研究所有限会社 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

Anaplasma phagozytophilum (Ehrlichia equi)感染症

発熱を含む臨床症状を示した1例においてAnaplasma phagozytophilumが確認された。診断はEDTA全血を用いたPCR検査によってなされた。

馬伝染性子宮炎(CEM)

異なる7施設において8頭の種牡馬と1頭の牝馬（アイスランド種）でCEMが確認された。確定診断は生殖器スワブを用いたPCR検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス1型（EHV-1）による流産

EHV-1による流産が11例確認された。確定診断は悪露と肺の針吸引サンプルを用いたPCR検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス1型（EHV-1）による神経型疾患

EHV-1による神経型疾患の発生が1例確認された。臨床症状は膀胱麻痺であった。確定診断は鼻腔スワブを用いたPCR検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス1型（EHV-1）による呼吸器疾患

EHV-1による呼吸器疾患の発生が1例確認された。臨床症状は発熱と呼吸器症状で、確定診断は鼻咽頭スワブを用いたPCR検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス4型（EHV-4）感染症

EHV-4による呼吸器疾患の発生が1例確認された。確定診断は鼻咽頭スワブを用いたPCR検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス4型（EHV-4）による流産

EHV-4による流産が1例確認された。確定診断は悪露と肺の針吸引サンプルを用いたPCR検査によってなされた。

ロタウイルス

1頭の子馬でロタウイルスが確認された。臨床症状は下痢であった。確定診断は糞便の抗原ELISA検査によってなされた。

腺疫（*Streptococcus equi*）

腺疫が6施設において13例確認された。感染馬のうち10頭は発熱や鼻汁漏出などの臨床症状を呈した。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた細菌培養によってなされた。その他3頭の感染馬は下顎リンパ節の膿瘍形成がみられた。確定診断は膿瘍滲出物を用いたPCR検査によってなされた。

香港

報告事項なし。

アイルランド共和国

サルモネラ感染症

レンスターにおいてサルモネラ感染症 1 例が報告された。現在のところこれ以上の情報はない。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫は 34 例が報告され、コノート (27 例)、レンスター (4 例)、マンスター (1 例)、アルスター (2 例) で確認された。現在のところこれ以上の情報はない。

イタリア

報告未着。

日本

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2018 年 4 月 5 日から 5 月 22 日の間に、異なる 7 施設において EHV-1 による流産の発生が 9 例確認された。6 例はワクチン接種済みであった。確定診断は北海道日高家畜保健衛生所および北海道十勝家畜保健衛生所で実施された。

マレーシア

報告事項なし。

ニュージーランド

報告未着。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ

本報告は、南アフリカ馬獣医師協会との共同で最近開発された報告システムを用いた検査機関と民間獣医師からの報告に基づいている。症例数はこの報告を基にしており、政府機関による公式の数字を必ずしも反映していない。

アフリカ馬疫 (AHS)

AHS は南アフリカでは 1984 年の動物疾病法(84 年法律第 35 号)によって規制されている疾病であり、所定の報告書式により州の獣医機関に全ての発生を報告しなければならない。

AHS は南アフリカのほとんどの州で発生が認められた。西ケープ州の AHS 管理エリアでは発生は確認されなかった。

ウマ脳症

ウマ脳症がクワズール・ナタール州（10 例）、ハウテン州で 10 例、西ケープ州で 7 例、北西州で 4 例、東ケープ州で 2 例報告された。

ピロプラズマ病

ピロプラズマ病がハウテン州（30 例）、クワズール・ナタール州（2 例）、北ケープ州（1 例）、西ケープ州（4 例）、ムプマランガ州（5 例）で報告された。

ウマヘルペスウイルス 1 型および 4 型（EHV-1,4）による疾患

EHV-1 による流産が 2 例報告され、それぞれハウテン州と西ケープ州で発生した。EHV-4 による呼吸器疾患がクワズール・ナタール州で 1 例報告された。プレトリア大学ウイルス性人獣共通感染症センター、人獣共通アルボウイルスおよび呼吸器病ウイルスプログラムが神経病ウイルスを検出

1 月～6 月は南アフリカのアルボウイルスの活動期であるが、2017 年に比べて 2018 年はウエストナイルウイルス(WNV)感染症が明らかに減少した。2017 年は上半期に 48 例の WNV 感染症が摘発されたが、2018 年は 5 月にハウテン州で 1 例が報告されただけである。この陽性馬は、オンダーステップートの馬診療所に神経症状を呈して入院してミデルブルグウイルス陽性が確認されており、脳の RT-PCR により WNV が検出された。

2018 年 4 月、北西州で脳炎症状を呈したキリンが WNV 感染症と診断された。

2018 年 8 例のウマのミデルブルグウイルス感染症が報告された。西ケープ州（3 例）、ハウテン州（2 例）、北ケープ州（1 例）、北西州（1 例）、クワズール・ナタール州（1 例）であった。

ハウテン州で神経症状を呈した馬がシンドビスウイルス陽性であることが確認された。また神経症状を呈して死亡した 2 頭（北西州 1 例、西ケープ州 1 例）からシュニウイルス様のウイルスが確認された。

2018 年上半期に、馬以外の野生動物や家畜、鳥類で、ミデルブルグウイルス陽性例（3 例）とシュニウイルス陽性例（7 例）が確認された。

韓国

報告事項なし。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

報告未着。

スイス

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による疾患

2018 年 5 月 31 日、1 施設で 5 頭の EHV-1 感染が確認された。確定診断は PCR 検査によってなされた。臨床症状は発熱を呈した。

ウマヘルペスウイルス 3 型 (EHV-3) による疾患

2018 年 5 月 31 日、EHV-3 に感染した 1 例が確認された。確定診断は PCR 検査によってなされた。臨床症状は皮膚病変であった。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による疾患

2018 年 5 月 16 日、EHV-4 に感染した 1 例が確認された。確定診断は PCR 検査によってなされた。呼吸器症状が観察された。

エーリキア症

2018 年 4 月 1 日から 6 月 30 日までに 4 例のエーリキア症が確認された。確定診断は PCR 検査または血液塗沫の鏡検によってなされた。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦 (UAE)

報告未着。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第 4 四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。

アメリカ合衆国

東部馬脳炎 (EEE)

10 例の EEE が確認され、全てフロリダ州での発生であった。

ウマヘルペスウイルス 3 型 (EHV-3) 感染症

ケンタッキー州で 1 例が確認された。

ウマヘルペスウイルス 2 型および 5 型 (EHV-2、EHV-5)

EHV-2 および (あるいは) EHV-5 が複数例確認され、しばしば呼吸器症状が認められた。

ウマヘルペスウイルス症候群

EHV-1 および EHV-4 による感染は広く分布しており、EHV-4 は主に子馬の呼吸器疾患を引き起こしている。呼吸器症状の有無に関わらず、EHV-1 感染の発生がカリフォルニア州、ジョージア州、ワシントン州で報告された。ケンタッキー州で EHV-1 による流産が 2 例報告された。EHV-1 による神経疾患の発生が 10 件確認された。発生が報告された 8 州のうち 7 州での発生は単発症例のみであった。

馬伝染性貧血(EIA)

馬伝染性貧血は 6 州で報告された。合計で 18 例が確認されたが、うち 12 例はテキサス州での発生であった。

馬インフルエンザ

馬インフルエンザはアメリカにおいて風土病である。4 州で確認され、1 州では複数例の発生が報告された。

馬ネオリケッチア症 (ポトマック馬熱)

3 例の馬ネオリケッチア症が確認され、2 例はケンタッキー州、1 例はテネシー州での発生であった。

狂犬病

ネブラスカ州で 1 例報告があった。

ロドコッカス感染症

アメリカにおいて *Rhodococcus equi* 感染症は風土病であり、症例や発生の多くは報告されていない。2018 年第 2 四半期ではケンタッキー州で 14 例が確認された。

サルモネラ症

2018年第2四半期に、12例のサルモネラ症が報告された。大半はサルモネラ血清型B群に属する株によるものであった。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

アメリカにおいて腺疫は風土病であり、24州で85件の発生が確認された。178例で*S. equi*陽性が確認された。11州で複数例の発生が認められている。

ベネズエラ

報告未着。